

第2節 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

鑄川圏域内における過去の大きな水害は、昭和22年のカスリーン台風、昭和23年のアイオン台風、昭和24年のキティ台風による洪水を始めとし、近年においては昭和49年、昭和57年、昭和58年、平成10年、平成11年、平成13年、平成19年等で洪水による床上浸水を伴う水害が発生している。

特に昭和57年の台風10号による洪水は、床上床下合わせて156棟の家屋や17.3ヘクタールの農地が浸水するなど多くの被害が発生し、圏域内に住む人々の記憶に残るものとなっている。

また、平成19年の台風9号では、流域内の観測所の一部では3日間500mmを超える降雨があり、鑄川本川沿いの未改修の無堤区間では局所的に床上床下浸水が発生した。圏域内全体でも、浸水被害は過去最大の戸数となっており、被害の大きさが際だっている。

鑄川圏域における治水事業としては、昭和29年頃から洪水氾濫のあった支川を中心に事業が実施され、長根川、庭谷川、大牛川、大沢川、南牧川など河川改修事業が完了している。また、鑄川沿川の治水対策として平成4年度に道平川ダムが、大仁田川沿川の治水対策として平成13年度に大仁田ダムが完成した。さらに市街地内を流下し過去において幾度となく洪水被害が発生している高田川は、昭和63年度から改修事業に着手し平成15年度に改修が概成している。また、同様に蚊沼川においても、市街地内の浸水発生が多発する箇所が平成19年度に改修が概成したことから、被害の軽減が図れている。

このような治水施設の整備により大きな水害は減少しているものの、鑄川本川下流部や局所的な低地部などでは、未だに浸水被害が発生しており、浸水被害軽減のための治水事業が今後とも必要である。近年における鑄川流域内の被害状況は、表2-1のとおりである。



平成19年9月 鑄川浸水状況（吉井町）



平成19年9月 鑄川出水状況（下仁田町）

表2-1 近年の鑄川流域の水害

| 発生年月日 | 原因 | 雨量 (mm) | 全壊流出 (棟) | 半壊 (棟) | 床上浸水 (棟) | 床下浸水 (棟) | 農地浸水 (ha) | 宅地等浸水 (ha) |
|---------------|----------|------------|-------------|-----------|-------------|-------------|--------------|---------------|
| S56.6.22～7.16 | 豪雨、台風5号 | 82 | | | | 7 | 3.8 | 2.3 |
| S56.8.21～8.23 | 豪雨、台風15号 | 237 | 1 | | | 18 | 2.0 | 2.8 |
| S57.7.5～8.3 | 豪雨、台風10号 | 190 | | 1 | 14 | 142 | 17.3 | 4.8 |
| S58.9.15～9.26 | 豪雨 | 141 | 1 | | 1 | 61 | 0.7 | 1.3 |
| S60.5.27～7.24 | 豪雨、台風6号 | 120 | | 1 | | | | 0.1 |
| S63.8.9～8.31 | 豪雨 | 175 | | | | 60 | | 1.8 |
| H1.7.24～8.7 | 豪雨 | 114 | | | | 7 | | 3.1 |
| H1.8.24～8.28 | 豪雨、台風17号 | 72 | | | | 1 | | 0.3 |
| H3.8.27～9.1 | 台風14号 | 88 | | | | 1 | | 0.01 |
| H7.6.13～6.18 | 梅雨 | 29 | | | | 50 | | 0.3 |
| H10.9.14～9.18 | 豪雨、台風5号 | 226 | 1 | | 2 | 94 | 0.4 | 0.9 |
| H11.8.19～8.20 | 豪雨 | 329 | | 6 | 14 | 24 | | 0.4 |
| H13.9.8～9.12 | 豪雨・台風15号 | 333 | | | 10 | 49 | 0.1 | 0.7 |
| H14.7.8～7.12 | 梅雨・台風6号 | 156 | | | | 1 | | 0.01 |
| H19.9.5～9.7 | 台風9号 | 440 | 4 | 36 | 58 | 179 | — | — |

※1: 雨量は、国土交通省管轄下仁田観測所の2日雨量

※2: 被害は、水害統計(国土交通省河川局)但し、平成19年度台風9号については、群馬県とりまとめ(鑄川沿川市町村合算値)であり、浸水面積等については、今後統計される見込み。